

共同礼拝

2022年5月1日(日) 午前10時30分

午後2時

司式 牧師 姜 匠米

前 奏

招 詞 詩編 29編 1b～2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 90編 1～6節 (旧 929)

マタイによる福音書 8章 18～22節

(新 14)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 166 (1)

説 教 「宿りの地」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 294 (1)

聖 餐 式

献 金

頌 栄 542

祝 禱

黙 禱

5月の祈り

天に昇り全能の父なる神の右に座しておられる主を見上げ、その御心が地に行われるように。

教会総会後の新たな教会の歩みが主に導かれ力づけられるように。

会堂での礼拝と自主礼拝・音声配信による礼拝を守っている兄弟姉妹とが聖霊によって結ばれ、主の体の肢として形成されるように。

戦火が早く止み人々の生活が回復されるように。
弱い立場の人々や子どもたちが守られるように。

今日の祈り

教会が主の導きの下に、困難な時代にあって福音宣教の使命を果たし続けることができるように。

主日の礼拝が支えられ、力づけられるように。

コロナ禍が乗り越えられ、教会の歩みが力づけられ、回復に向かうことができるように。

「宿りの地」

高橋和人

マタイによる福音書 8：18～22

山上の説教に続く主イエスの言葉は信仰を持って生きることとはどんなことかを語る。信仰生活の中心は礼拝だが、そのほかの生活は一般的な市民生活とそれほど変わりがあるわけではない。普通に学校に行き、普通に働いて生きている。

信仰を持っている者の生き方の違いは主イエスについて行くことにある。ついて行くことがどういうことなのか問われることがある。

主イエスの周りには群衆がいた。その中に、弟子たちがいた。主は弟子たちに湖を超えて行くように命じる。群衆であることから一步を踏み出させる。

一人の律法学者が近づく。律法学者は努力し良く学び尊敬された。神についての知識と行いに秀でていた。その彼が主イエスを「先生」と呼ぶ。律法の教師が「あなたがおいでになる所なら、どこへでも

従って参ります」という。それは人生の転換であり決断と勇気のいることだ。

主イエスは「狐には穴があり、空の鳥には巣がある。だが、人の子には枕する所もない」とその厳しさを語られた。自分には狐や鳥さえ持つ枕する所はないという。

人は自分の居場所を求める。主イエスは旅の人であったがペトロの家やベタニアに休息の場所を持っていた。しかし、そこにとどまることをされなかった。主は御自分を「人の子」と呼ばれる。人の子はダニエル書7：13に預言されている天的な永遠の主権者。主はこの来るべき時の主権者として自分を重ねる。

真の主権者でありながら、枕するところがない。それは安住の地を持たないわれらと同じになられたからだ。人は自分の持っているもので安住を得ようとする。しかしそれは失われていくものばかりだ。

もう一人主に従おうとする者がいる。父の葬りを済ませてからと言う。葬りは重んじられる。しかし、葬りが主に従うことに優先されたり中断されてはならないことを語る。実際、人は死に対して何かができるわけではない。委ねる以上のことができるわけではない。

そこでこそ主について行くことが必要だ。主の後姿を見ながらでなければ。なぜなら、主イエスのみが死の影の谷に行くことのできるお方だからだ。死に対する主権者は他におられない。

われらが、主の後姿を見るのは礼拝においてだ。そこで主の主権に従い、主に服する。主の御心の十字架の恵みと赦しを受け入れる。恐れずにとだついて行くことによってである。

人間の権力は人を死に追いやる場所まで至る。しかし、死の支配から救うことはできない。